

# 台湾で活躍した水利技師



鳥居信平  
『南極とともに』より

とり い のぶ へい  
**鳥居 信平**  
(1883 ~ 1946)

鳥居信平は、明治16年(1883)1月6日、静岡県周智郡山梨村(袋井市上山梨)に生まれた。水利技師として、台湾で地下ダムを建設し、現地の人々からたいへん感謝されている。信平は少年時代を袋井で過ごし金沢の四高に進学、明治41年に東京帝大(現在の東大)農科大学に入学した。卒業後は農商務省農務局、徳島県技師などを経て、台湾製糖株式会社に転職した。台湾に渡った信平は、すぐに総合的な調査を行い屏東県の林辺溪に地下ダムを作ることを決めた。地下ダムとは、日本のように川の表流水をせき止めるダムとは違い、地下水の流れをせき止める構造で、現地の人々の大切な狩り場や漁場に配慮し、生態系や自然を壊すことのないように設計した。工事は、大正10年5月から始まり、長さ328mのダムを埋設した。ダムに集められた伏流水は、導水路を通して送られ、支線から小支線を通して扇形の屏東平原に行き渡るように工夫した。大正12年に2,500畝に及ぶ農場が完成。この土地の開拓事業は地域住民の生活向上に大きく貢献した。

当時、伏流水をこのように大規模利用した灌漑施設は例がなく、極めてざん新な試みだったため、昭和11年、農業土木の関係者として、初めて日本農学賞を受賞した。昭和21年(1946)2月15日、脳溢血のため死去。享年63歳。台湾南部では、今も20万人を超える人々がこの地下ダムの恩恵を受けて暮らしている。

## 【参考・引用文献】

鳥居鉄也2007『南極とともに』

平野久美子2009『水の奇跡を呼んだ男』



鳥居信平の胸像(月見の里学遊館)